

## 2008年度経済学部研究プロジェクト

### 最終提出論文・作品についての注意

(2008年5月10日版)

---

#### A. 論文の要件

論文とは次にあげる内容に注意して執筆する学術的文章である。

- (1) 論文の中での議論の進め方が論理的であること
- (2) 論旨・結論は明確であり、誰にでも理解できるようなものであること
  - \* 論文が対象とする読者は、一般的には大学生以上の一般的な人々を指す。
- (3) 文献や調査結果などの資料は、読者によって共有されなくてはならない
- (4) 先行研究を踏まえた研究であることがわかるように書く
- (5) 専門用語を使って、学術的分析を行うこと
- (6) 引用した文献についてその出典を明記すること

#### B. 論文の形式

##### 1. 表紙・要旨

- (1) 概要：  
論文の目的、方法、結論を簡潔に400字程度にまとめた要旨を作成し、指定されたフォーマットで表紙に載せる。別紙1には、フォントサイズや記載すべき項目が記載されている。必ずこの通りの書式で表紙を作成すること（最終的には、公開される資料であるため、学籍番号やメールアドレス等の個人情報には記載しない）。また、表紙には、ページ番号を入れない。
- (2) 要旨の書き方に関する注意：  
要旨は、結論の要約ではなく、論文の要約であることに留意する。なお、要旨は、一般公開されるので、用語法等については細心の注意を払って作成すること。また、提出前には、指導教員に確認してもらうとよい。

##### 2. 目次

目次を必ず作成し、提出論文に添付しておくこと。

### 3. 本文

#### (1) 論文フォーマット（物理的条件）：

特別な理由がない限り用紙サイズはA4 とする。用紙は縦置きにして横書きする。論文作成には、パソコン用ワープロソフトを利用する。提出の際には、用紙の前後左右に十分な余白を取り、読みやすいフォント（例えば、明朝体）およびサイズ(例えば、12 ポイント)で印刷する。原則として手書きは不可。

#### (2) 論文フォーマット（内容面）：

専門分野により異なる論文形式が望ましいことが予想されるため、当プロジェクトでは論文内容の形式については定めていない。担当教員の指導を受けること。なお、論文の基本的な書き方については、以下の文献を参考にするとよい。

河野 哲也：「レポート・論文の書き方入門 第3版」  
慶應義塾大学出版会

(ISBN： 978-4-7664-0969-7 (4-7664-0969-8))

#### (3) 論文の量：

文字数の規定はないが、1年の研究成果としての説得性を持つ分量である必要がある。一般的には、20,000～40,000字が目安となる。ただし、研究分野によってその分量は大きく異なるので、指導教員と相談すること。

#### (4) 図表・写真の使用：

公開に適さない図表、プライバシー保護、著作権に抵触する可能性がある図表は、極力論文に含まないように注意する。許諾手続き、用語法や参考・引用文献のチェック等は、個人の責任のもとで行う。論文は、ネット上に公開されるため、図表は必要最低限にし、サイズの大きな写真等はなるべく使用しないようにする。

## C. 論文の提出

### 1. 装丁

提出論文は、必ず、表紙（要旨を含む）、目次、本文の順に、A4判ファイルに綴じてあること。

### 2. 最終提出物

#### (1) 提出する内容：

次の(a)と(b)の両方をセットにして提出する。

(a) 装丁された正本とコピー2部 (計3部)

(b) 表紙・目次・本文を (1つの) PDF ファイルにして  
CD-R に焼いたもの (1枚)

(2) 主な研究成果が作品である場合：

主な研究成果として作品を提出する場合も、作品本体 (1部) と共に副論文を3部+論文のCD-Rを提出すること。

#### D. その他

共同研究における提出について

研究を共同で行った場合も、「C. 論文の提出」で示している提出物を、参加者一人一人が独立した内容で提出する必要がある。独立した内容とは、独立した別個の論文 (副論文) を執筆することを意味しており、共同論文 (副論文) の提出は認めない。

以上